

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第19号



総会集合写真

目次	同窓会会長あいさつ.....	1
	保健学教育部長あいさつ.....	2
	保健学科講義棟改修工事について.....	3
	名簿管理システムおよび同窓会会報のデジタル化について.....	3
	在校生の寄稿.....	4
	同窓会総会議事録.....	6
	特別講演.....	9
	特別企画.....	10
	熊本大学卒業生表彰.....	11
	安田セツ子奨学助成基金運用のご報告.....	11
	ご寄附について.....	12
	国家試験合格状況.....	12
	寄附者芳名録.....	13
	令和4年度卒業生の進路状況等について.....	14
	保健学科教員紹介.....	15
	同窓会役員名簿.....	15

2024年度保健学科同窓会総会、特別講演、懇親会のご案内

日時：2024年7月6日（土）（予定）
14時00分より

場所：熊本大学医学部保健学科

変更の可能性もあるためURLをご覧ください。

熊本大学医学部保健学科同窓会
<http://hoken.kuma-u.jp/>

毎年7月第1土曜日に予定をしています。

住所変更・会報不要の方は、下記にご連絡ください。

TEL：096-382-1177

メール：kumamoto@ohp.co.jp（小野高速印刷）

ご挨拶

同窓会会長 春田 昭一

(済生会熊本病院／医療技術短期大学部衛生技術学科5期)

平素より医学部保健学科同窓会へのご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

2023年5月8日、新型コロナの感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行しました。この3年余りの間、日本国民は未知のウイルスに怯えながらいろいろな制約のもと不自由、不便を感じた方も多かったと思います。飲食店や観光地などでは客足が遠のき店じまいをしたところも多かったと聞きます。しかし、「5類」移行を機に社会情勢は大きく動きました。観光地も人混みに溢れ、飲食店も活気が戻ってきました。保健学科同窓会も2年連続の開催中止、昨年オンライン開催を経て、今年は4年ぶりの現地開催の運びとなりました。ただ、感染リスクもゼロではないことから、例年の総会後に開催しておりました懇親会について今年は見送らせていただきました。懇親会を楽しみにされていた卒業生の方には大変申し訳ありませんでした。なお、本年度は懇親会の開催を見送りましたが、出来るだけ多くの同窓会会員の皆様に総会への参加と講演をお聞きいただければと思います。同窓会総会をオンラインで視聴することが出来るように致しましたところ、現地参加38名、オンライン参加9名と無事開催することが出来ました。ありがとうございました。

また、今年は懇親会を行わないことで卒業生の参加も多くは見込めないとの予想と、この3年間総会を行わなかったことで学生さんたちの同窓会に対する認識が薄れているであろうことから、学生さんに同窓会を認知して貰うため、また、同窓会を次世代へつないでいくための企画としました。卒業後2、3年の現役の看護師、検査技師、放射線技師の方には、臨地実習での経験や国家試験対策、就職活動など、学生さんたちには興味深い内容を話して頂きました。講演会の時間の制約上、質疑時間が取れなかったこともありましたが、同窓会終了後には多くの学生さんたちが卒業生のもとを囲んで質問をしていました。

さらに、特別講演では元RKKアナウンサー福島絵美様に「伝わる話し方」という内容で講演して頂きました。福島様は熊本大学教育学部卒業の熊本大学の同窓生でもありますが、小学校教師を目指されていた学生時代にプロの話し手に接してアナウンサーの魅力に惹かれてRKKに入局され、長らく熊本のニュース番組などで活躍されていたので、ご存知の方も多くいらっしゃると思います。プロの話し手による講演は心に響くものがありました。

また、総会では令和4年度事業報告、令和5年度事業計画とともに同窓会名簿廃止に伴う同窓会会員管理システム「WEB同窓会システム」の紹介を致しました。情報漏洩、名簿売買などの問題から昨年総会で同窓会名簿の発刊をとりやめたことで、卒業生の管理も難しくなっております。卒業生の皆様をご自身で名簿を活用でき、ご自身で登録されたメールでタイムリーな情報も提供出来る仕組みとなっております。同時に社会全体でのSDGsおよび、デジタルトランスフォーメーションの取り組みから同窓会会報のデジタル化についても検討しております。詳細は別途3項の「名簿管理システムおよび同窓会会報のデジタル化について」で後述致しますのでご確認をお願いします。

新型コロナとの戦いからもうすぐ4年になり、新型コロナに対する考え方、危機感が変わり、制限緩和の動きもあります。WHOも「終息が視野に入った」との見解を示し、一方で気を緩めてはならないと付け加えています。新型コロナは「5類」に移行した後、ニュースなどでは報道されていませんが、静かに感染の「波」がきております。

卒業生の皆様におかれましては、健康に留意されご自愛くださいますようお願い申し上げます。

ご挨拶

大学院保健学教育部長・医学部保健学科長 大林光念



令和5年4月より保健学教育部長・保健学科長に任ぜられました大林光念でございます。熊本大学医学部保健学科同窓会の皆様におかれましては、日頃より大学へのご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2019年末以来、長きにわたり社会に大きな制約を強いた新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着きを見せつつある今、大学院保健学教育部・医学部保健学科も、大学院大学たる熊本大学の一部局として新たなステージへと進化すべく動き出しました。タスク・シフト／シェアの方針のもと、チーム医療への貢献や医療の均一化・適正化に努めることが求められるうえ、高齢化社会におけるハイレベルな予防医療・先制医療、あるいは在宅医療の提供、人工知能（artificial intelligence：AI）や医療デジタルトランスフォーメーション（DX）に関する知識を要求される現代の医学界・医療界においては、伝統の上に培われた教育の「受け手」に留まることなく、広く社会情勢に精通し、能動的に総合医科学の知識やリサーチマインドを向上させる意気込みがなければ、現代の新しい医療環境に対応可能な医療従事者を輩出することは不可能です。この状況に対応すべく、ウィズコロナ・ポストコロナ時代に先駆けて我々が行ってきた「生体情報研究センターの開設（2020年度）」や「大学院博士前期課程遺伝カウンセリングコースの開設（2022年度）」、そして「未来志向の学術研究拠点形成のための基盤づくりと学都熊本を牽引する個性と創造性あるキャンパス形成を具現化するためのABC棟改修工事（2023-25年度）」といった活動が、必ずや熊本大学大学院保健学教育部・熊本大学医学部保健学科の新たな歴史を形成する一助となるはずで

一方で、新たな歴史の形成には、大学と同窓会との「新時代を見据えた健全で対等な協力関係の構築」も不可欠です。大学に大学なりのビジョンがあるように、貴同窓会においても「あるべき後進の姿」を思い描いていた

だき、若手の育成に有益な支援活動を考案、継続していただければ幸いです。充実した教員陣と最先端設備、そして先輩たる熊本大学医学部保健学科同窓会の皆様の温かいご支援に囲まれ、人を愛するために学びを愛する若人たちが、人への深い思いやりと医学・医療への熱意、最先端の総合医科学的知識を併せ持つ人材に成長する場として、今後益々熊本大学大学院保健学教育部・熊本大学医学部保健学科を活用してくれることを、私ども教職員一同、心より願っております。

末尾となりましたが、この度のABC棟改修工事（第一期）にあたり、貴同窓会より「講義用大型モニター購入費」として壹百万円の御寄附を賜りましたことに心より感謝申し上げますとともに、貴同窓会の益々のご発展を祈念いたします。

保健学科講義棟改修工事について

医学部保健学科の講義棟は、前身の医療技術短期大学部設立と同時に1976年に現在の場所に新築されました。

2016年熊本地震時の修復工事や車椅子用のエレベータ増設は行われていますが、築50年近く経過した講義棟は、熊本大学の他学部の中でも最も古い学舎となり、施設の老朽化が見られるようになりました。そこで、今年度より講義棟の大型改修工事を行うことになりました。工事は移設新築ではなく、現存する学舎を使用しながらの3段階に分かれての改修工事ということになります。皆さんもご存知かと思いますが、国立大学の予算も毎年厳しくなっていく中で、決まっているのは第一期工事のみで、第二期工事以降はこれから予算計上という厳しい状況です。また、建屋である箱物の工事予算は付けられていますが、机、椅子、実験台、その他の設備についてはこれから予算を確保しなければならない状況です。

大学事務局でも財源確保に尽力されていますが、同窓会からも支援が必要と考えて、同窓会役員会で検討を行った結果、第一期工事に向けて、壹百万円を支援することにしました。しかしながら、前述しての通り、国立大学の予算も毎年厳しい状態となっております。

これまでも卒業生の皆様には幾たびと同窓会へのご寄附

を承っておりますが、充実した施設整備によりこれからの医療人を育成するためにも卒業生の皆様にも改めて大学へのご支援を承りたいと思います。

ご支援いただく場合には、大変お手数ですが、「熊本大学基金」<https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/>の「寄附の方法」のページから「Web申込によるご寄附」「クレジットカードによるご寄附」「専用払込用紙によるご寄附」のいずれかの方法で、寄附の目的を「学部・研究科等教育研究支援事業」を選択後に記入欄には「保健学科改修工事支援」としていただければ幸いです。

なお、別途後述致しますが、今回お願い致しますご寄附の「保健学科改修工事支援」とは別に、同窓会の運営（同窓会総会、学生支援、ホームカミングデー支援など）のご寄附も併せてお願いいたします。

どうぞ皆様のお力添えをお願いします。



熊本大学基金

名簿管理システムおよび同窓会会報のデジタル化について

現在、保健学科同窓会では2つの課題を抱えております。

一つは名簿の不正利用など個人情報保護の観点から名簿冊子を廃止しましたが、これに伴い同窓生の消息の管理が困難になること。もう一つは、毎年増加する同窓生による会報の発送数増加と近年の物価高による会報作成・発送費用の高騰です。

同窓会役員会では、これらの問題に対処すべく次年度総会での承認を目指し以下の事項を検討中です

まず、名簿については、同窓会としても卒業生の消息管理のためには名簿は必要と考えますが、その管理手法として他の大学同窓会でも利用されている名簿管理システムの利用を検討しています。「WEB同窓会システム」(<https://www.wd-system.jp/index.html>)で検索していただければ詳細な説明はございますが、個々の同窓会会員は、公開する個人情報や郵便・発送先など、ご自身で登録・更新することが可能となります。また、ご自身の個人情報についても各項目ごとに公開／非公開を設定することができます。さらにメールアドレスを登録していただくことで、同窓会総会や同期会などや、大学に寄せられる既卒者の求人情報などを同窓会よりリアルタイムにご案内することができ、同窓会会員の皆様にもメリットは十分にあると思います。当然、名簿データは強靱なセキュリティにより外部からの不正アクセスに対処しており、正規にログインした同窓会会員以外は閲覧することができませんので安心してご利用いただけるものと思います。

もう一つは、同窓会会報のデジタル化（ペーパーレス化）です。同窓会会報については現在でも保健学科同窓会ホームページ上でいつでもご覧になれますが、同窓会ホームページの存在をご存知ない方も多く、更新タイミングもわからず有効に活用されていなかったのではないかと思います。今後は名簿管理システムとの連携により、会報発行のタイミングでWEB同窓会システムに登録いただいたアドレス宛にメールにて通知し、そのメールの同窓会のリンク先をクリックしていただくことで簡単に会報を見ていただくことができるようになると思います。

社会全体を見ましても、SDGsの推進とデジタル化（ペーパーレス化）の取り組みが行われています。同窓会役員会は、名簿のシステム化とペーパーレスへの移行（すなわち会報の印刷、発送の停止）により、現在抱えています課題に対処したいと考えています。

最終決定は次年度の同窓会総会において、名簿管理システムの導入と会報発送の停止について審議を行い、承認された際には次年度から発送停止とさせていただきます。

さまざまなお見解があらうかと思っておりますので、事務局までご意見を頂戴できればと思います。また、ハイブリッド開催も検討しておりますので多くの方の参加をお願いします。例年同窓会は7月の第一土曜日に開催しており、詳細は同窓会ホームページ(<http://hoken.kuma-u.jp/>)でも随時ご案内しておりますのでご確認をお願いします。

在校生の寄稿

大学生活を振り返って

看護学専攻4年 なかしま あみ 中島 杏実

大学生活を振り返ると、あっという間の4年間だった気がします。私たちの学年は入学時から新型コロナウイルスが大流行しており、正直自分が高校生のように感じていたキャンパスライフとは遠くかけ離れたものでした。オンライン授業で友人にはあまり会うことが出来ず、部活やサークルの活動も制限され、新型コロナウイルスによって、制限された部分が多い大学生活でした。新型コロナウイルスが流行していなかったらどんな大学生活を送ることが出来たのだろうと思う部分もありますが、その中でも授業、実習、部活、アルバイト、遊びと大学では様々なことを経験し、その中で多くの人との出会いがあり、学びがあり、有意義な4年間だったと感じます。

特にこの4年間で印象に残っていることは3年次の領域別実習です。この実習では自分の弱い部分を目の当たりにして、自分は本当に看護師としてやっていけるのだろうかと不安になったり、実習の大変さに逃げ出したいなったりすることもありました。しかし、グループメンバーと支え合い、看護師の方や先生方からのアドバイスなどにより患者さんと向き合うことができ、多くのことを学ぶことが出来ました。実習では、看護師の大変さを感じると同時に、患者さんが自分の言動によって笑顔になってくれたり、「ありがとう」「あなたがいてくれて良かった」と感謝の言葉を貰ったりして、改めて看護師のやりがいを感じました。また、このような看護師になりたいと思う看護師の方にも出会うことが出来ました。今後は実習で学んだことを活かしながら、患者さん一人ひとりに寄り添い、全人的な看護を実践できる看護師を目指していきたいです。

最後に、同じ環境で過ごしてきた友人や支えてくださった先生方にはとても感謝しています。私を支えてくれている周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、理想の看護師になるために、常に向上心を持ち、努力をし続け成長していきたいです。

大学生活を振り返って

検査技術科学専攻4年 きよの えいいちろう 清野 瑛一郎

大学生活を振り返ると、この4年間はあっという間で、学業だけでなく部活動やアルバイトなどにも取り組み、充実した日々を過ごすことができました。また、様々な人との出会いや、社会生活で得た経験を通して、自身を大きく成長させることができました。

大学入学したと同時期に新型コロナウイルスの感染が拡大し、入学してからの2年間、ほとんどの講義・実習が遠隔授業になりました。初めての一人暮らしに加えて、制限のある生活の中で不安に感じるが多かったのを記憶しております。そういった状況下でも、出会った友人が支えとなり、難しい実習の課題やテスト勉強に取り組むことができました。お互いに教えあいながら勉強した友人や、親身になってくださった先生方の存在があったからこそ、コロナ禍で始まった大学生活を乗り越えることができ、とても感謝しています。

大学4年次の臨地実習は、私にとって、とても貴重な経験となりました。実際に、患者様の検査をする臨床検査技師の業務を目の当たりにし、専門性の高い内容に難しいと感じることもありました。しかし、技師の方々に多くの質問をして、それに対し丁寧に指導頂く中で、これまで頭に詰め込むだけだった知識が結びつき、理解を深めることができました。また、常に患者様を第一に考え、高い知識と技術を身につけるために日々努力し、責任と誇りを持って働かれている姿を拝見し、とても刺激を受けるとともに、今後、目指したい臨床検査技師像を思い描くことができました。

大学卒業後は病院に勤務し、正確な検査結果を提供するのはもちろんのこと、患者様の疾患背景を理解し、付加価値の高い情報を提供できる臨床検査技師になりたいです。最後に、この4年間で切磋琢磨したクラスメイトやお世話になった先生方、臨地実習で多くのことを教えていただいた臨床検査技師の方々に感謝し、これまで得た知識や技術、経験を活かして今後も自分自身の成長に繋げられるよう努力していきたいです。

大学4年間を振り返って

放射線技術科学専攻4年 なむら りゅうせい 中村 隆聖

私は大学生活を振り返ると、困難な時期を経験しながらも非常に充実していたといえる4年間を過ごしたと思う。楽しい大学生活を送り、立派な診療放射線技師になるという希望を胸に入学した大学一年では、新型コロナウイルスの影響で思い描いていた大学生活を送ることができなかった。授業はオンラインやオンデマンドを中心に行われ、サークル活動もあまり活発に行われず、自宅で一人で過ごす時間が長かった。比較的、感染症が落ち着き、対面授業やサークル活動が再開され友人も増えていったが、将来医療に従事する者として繁華街への外出を控えたり、三密を避けるなどの感染症対策をしたり、様々な配慮が必要であった。このような状況であったにも関わらず、充実した4年間を過ごすことができたのは苦楽を共にしてきた友人たちのおかげだと思う。特に臨床実習では、普段と違う環境で勉強し、レポートや実習の復習と予習を繰り返す日々にとっても苦勞した。それと同時に就職活動や卒業研究を行い、不安やストレスを感じながらの日々の中で、同じ志を持った友人と切磋琢磨し支えあいながら乗り越えることができたのは、非常に貴重な経験であり、今後の人生の財産になると思う。また学業以外では、大学生になり一人暮らしを始め、勉強だけでなく家事も自分一人でごこなさなければならず、これまで実家で親に頼ってばかりであったことを反省した。このように大学生活を振り返ってみると、常に周りの人に支えられて過ごしていたことに気づく。オンラインやオンデマンド、対面の授業などそのときの状況に応じて対応し講義をしてくださった先生方、コロナ禍でも最善の対策を講じながら臨床実習を受け入れてくださった実習先の病院の方々、大学生活を充実して過ごすことができるように様々な支援をしてくれた家族、そして困難な状況の中でも苦楽を共にしてくれた友人たちのおかげで有意義な4年間を過ごすことができたと思う。

大学院生活を振り返って

保健学教育部放射線技術科学コース

博士前期課程2年 いわかわ けんたろう 岩川 拳太郎

私は2022年3月に熊本大学医学部保健学放射線技術科学専攻を卒業後、同年4月に熊本大学大学院保健学教育部博士前期課程放射線技術科学コースに進学しました。現在、医療分野ではAIが活用されており、診療放射線技師の業務の中でも、診断支援や画像処理に用いられています。そこで私も人工知能を用いた研究を行いたいと考え、大学院に進学しました。

私は大学院の2年間で大きな経験を2つすることができました。1つ目は整形外科の病院で診療放射線技師としてレントゲン撮影のアルバイトを行ったことです。私は4年次の国家試験に合格し、地域の診療所のご厚意で私たち大学院生を診療放射線技師として雇っていただきました。放射線技師として実際に働くことで、社会人として病院に勤務する前に、患者さんの不安を取り除くために放射線技師がわかりやすい説明を行うこと、医師や看護師の方々とチーム医療を実践する中で、放射線の専門家として理解しやすく、具体的な見解を述べることの重要性を考えることができました。

2つ目は修士課程の2年間で研究活動に密に取り組むことができたことです。研究内容は深層学習・AIを用いた医用画像に関する研究で、最初は自分自身の知識の少なさ、研究に行き詰まり、研究成果がうまく出ず、悩むこともありましたが、指導教員の先生や、研究室の先輩方、同期の仲間と研究計画や方法に関して意見交換をすることで乗り越えることができました。また、研究活動を行うだけではなく、学会にも多数参加し、口述発表も行いました。学会では様々な発表を拝見し、モダリティに関する専門性を高めることに加え、研究活動に取り組む多くの診療放射線技師の方々を目の当たりにし、私の将来像をより具体的にすることができました。

私は大学院の2年間で、2つの大きな経験と診療放射線技師として研究を行う意義や研究に取り組む楽しさを学ぶことができました。私はご縁あり、大学病院に就職することが決まっています。就職後も大学院で培った研究に対する向き合い方を忘れず、研究に取り組み、社会人、診療放射線技師としても一人前になれるように日々精進していくつもりです。

6年間の学生生活で私は多くのことを学び、目標を見つけ、将来について考えることができました。いずれも私1人の力ではなく、環境に恵まれたおかげです。先生方、研究室の先輩後輩、同期の仲間たち、私の学生生活に関わることができた全ての方々に感謝しています。

第18回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 令和5年7月1日(土) 14:30~17:00
 場 所 熊本大学医学部保健学科E506(5F)
 出席者数 47名
 議 長 柗中智恵子先生(熊本大学医学部保健学科)

<総会式次第>

開会の辞
 同窓会会長挨拶
 保健学教育部長挨拶
 議長選出
 議事

1. 令和4年度事業及び会計に関する報告
 - ① 事業報告
 - ② 決算報告
 - ③ 監査報告
 2. 令和5年度事業計画(案)
 3. 令和5年度予算(案)
 4. 「WEB同窓会システム」導入の検討について
- 閉会の辞

【議事要旨】

14時30分、溝上副会長より開会が告げられ第18回同窓会総会が開会された。

最初に、春田会長が会を代表して挨拶を行い、続いて大林熊本大学大学院保健学教育部長のご挨拶が行われた。その後、柗中先生(熊本大学医学部保健学科)が総会議長に選出され、議事に従い4項目の議案の審議が行われた。

1. 令和4年度事業報告及び会計に関する報告

春田会長より第17回同窓会総会の開催、同窓会会報第18号発行、第7回九州同窓会連合会への参加、令和4年度関西連合同窓会の参画、卒業生表彰等、1年間の

事業が報告された。松本会計幹事より令和4年度の会計について決算状況が報告された。その後、橋田・清水監事より令和5年3月30日に行った会計の監査結果について、適正であったとの報告が行われた。質疑応答では特に質問はなく、その後賛成多数で令和4年度事業報告、決算報告並びに会計監査報告は賛成多数で承認された。

2. 令和5年度事業計画(案)について

春田会長より、令和5年度事業計画(案)について説明があった。

3. 令和5年度予算(案)について

令和5年度予算(案)について松本会計幹事より説明があった。質疑応答では特に質問はなく、その後、採決を行い、参加者の賛成多数で令和5年度事業報告(案)、令和5年度会計予算(案)は承認された。

4. 「WEB同窓会システム」導入の検討について

春田会長より、「WEB同窓会システム」導入の検討について説明があった。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、降壇した。

最後に、溝上副会長より閉会の挨拶があり、同窓会総会は、15時00分に終了した。

次に特別企画において、看護学専攻 渡辺先生、放射線技術科学専攻 葉師寺先生、検査技術学専攻 結城先生から、「卒業生から在校生へのアドバイス」と題した講演が行われた。

最後に特別講演としてアナウンサー／元熊本放送アナウンサー部長 福島絵美様より「伝わる話し方」と題した講演が行われた。

令和5年7月1日
 議事録署名人 松尾 祐一



令和5年度 熊本大学医学部保健学科同窓会 予算案

収入

勘定科目	本年度予算額	前年度収入額	増減額	備考
1.前年度からの繰越金	7,235,555	7,499,617	-264,062	
2.保健学科入学生会費	1,200,000	1,399,620	-199,620	昨年度納入者数:140名(うち、令和3年度新入生116名、卒業生2名、在校生6名、令和5年度新入生16名) 本年度も左記を見込み計上
3.その他	0	485,935		
寄附金		482,406		
雑所得		3,472		
利子		57		
合計	8,435,555	9,385,172	-949,617	

支出

勘定科目	本年度予算額	前年度執行額	増減額	備考
大科目 中科目				
1.在校生教育支援費	100,000	735,000	-635,000	
オープンキャンパス補助費	100,000	0		昨年度オープンキャンパス中止
生活支援金補助	0	735,000		令和4年度:新型コロナウイルス対策で実習時のアルバイト禁止のため、実習学年へ補助(5,000円×147名)
2.同窓会総会運営費	110,000	0	110,000	※令和4年度:新型コロナウイルス感染対策のため、総会をオンラインにて実施。令和5年度は対面にて実施予定(懇親会は実施しない)。
総会費	30,000	0		会場使用料、文具等
特別講演講師謝金	50,000	0		
特別企画講師謝金	15,000			5000円×3名
交通費	5,000	0		特別講演の講師交通費 5000円×1名
広報費	10,000	0		チラシデザイン費、郵送費等
3.同窓会会報作成費	1,150,000	1,126,189	23,811	印刷費・作業費・郵送費込み
4.ホームページ維持管理費	59,500	59,500	0	
5.熊本大学同窓会連合会会費	60,440	60,440	0	郵送費込み
6.表彰費	50,000	80,000	-30,000	卒業生表彰記念品、郵送費込み 表彰式参加交通費も含めて計上
7.会費・寄附金払い戻し	30,000	0	30,000	重複納入者への払い戻し、郵送費等 令和4年度:払い戻しなし
8.旅費	140,000	81,000	59,000	役員会議時雑費(1000円/回×参加者数) 令和5年度東京連合同窓会へ会務として出席
9.事務経費	30,000	7,488	22,512	事務用品、通信費、会議費、各費目に含まれていない振込み手数料等 令和5年度より役員会会場使用料支払いが必要
10.予備費	100,000	0	100,000	
11.次年度繰越金	6,605,615	7,235,555	-629,940	
合計	8,435,555	9,385,172	-949,617	

令和4年度 熊本大学医学部保健学科同窓会 決算

収入

勘定科目		予算額	収入額	備考
1.前年度からの繰越金		7,499,617	7,499,617	
2.保健学科入学生会費		1,150,000	1,399,620	令和4年3月1日～令和5年2月28日入金分 令和4年度納入者総数 140名 令和4年度入学生 116名 (看護61名、放射27名、検査28名) 卒業生 2名 (手数料380円差し引き) 在校生 6名 令和5年度新入生 16名
3.その他		0	485,935	
	寄附金		478,760	令和4年3月1日～令和5年2月28日入金分 124名 (手数料23,360円差し引き)
	寄附金		3,646	旧熊本大学医療技術短期大学部同窓会口座残額より寄附
	雑所得		3,472	
	利子		57	
合計		8,649,617	9,385,172	

支出

勘定科目		予算額	執行額	備考
大科目	中科目			
1.在校生教育支援費		700,000	735,000	
	オープンキャンパス補助費	0	0	令和4年度:オープンキャンパス中止
	新4年生へ支援金	700,000	735,000	新型コロナウイルス対策で実習時のアルバイト禁止のため、 実習学年4年生へ補助 5,000円×147名
2.同窓会総会運営費		0	0	
	総会、懇親会補助費	0	0	
	講師謝金	0	0	※新型コロナウイルス感染対策のため、総会は中止
	交通費	0	0	
	広報費	0	0	
3.同窓会会報作成費		950,000	1,126,189	印刷費・作業費・郵送料込み
4.ホームページ維持管理費		59,500	59,500	郵送料込み
5.熊本大学同窓会連合会会費		60,440	60,440	郵送料込み
6.表彰費		50,000	80,000	卒業生表彰記念品および表彰式参加のための交通費・宿泊費(令和4年度:1名)
7.会費・寄付金払い戻し		30,000	0	会費払い戻しなし
8.旅費		80,000	81,000	役員会議時雑費(1000円/回×参加者数)
9.事務経費		30,000	7,488	事務用品、通信費、会議費、手数料等
10.予備費		100,000	0	
支出小計			2,149,617	
11.次年度繰越金		6,589,677	7,235,555	
合計		8,649,617	9,385,172	

【収入】 9,385,172円 — 【支出】 2,149,617円 = 【差引残高(次年度繰越額)】 7,235,555円

令和4年度熊本大学医学部保健学科同窓会の会計監査を令和5年3月30日に実施し、出納簿、領収書等関係書類と照合した結果、関係書類の整備も良好であり、科目別支出および預金通帳についても異常を認めず適正であったことを、ここに報告します。

令和5年3月30日

監事

橋田昌弘 (橋田)

清水恵子 (清水)

特別講演

「伝わる話し方」

福島 絵美

(アナウンサー／元RKKアナウンサー)



私は教育学部の出身で、卒業後も大学とは、番組や取材、外部講師や経営協議会などの委員として関わってきた。これからも、母校を応援していきたいと思っている。今日は、コロナ禍で苦勞も多い在校生のみなさんへ、アナウンサーの仕事を通して

感じることや、将来、現場で役立ててもらいたい事などを話したい。

今、「RKKアナウンス講座」など、講習会の講師をすることが多いが、コミュニケーションで悩んでいる若い世代が多いと感じる。世代の違う人たちと活動する機会が制限されたためか、「年上の人と話すのが苦手」「児童の保護者と意思疎通ができない。」「職場で電話を取りたくない」など、悩みは様々。それでも社会人になれば、コミュニケーションを取りながら仕事をしなければならない。

まず、みなさんに意識して欲しいことは、「第一声は、しっかりした声で。」大声ではなく、相手に言葉を届けるという気持ちで話す。「おはようございます。保健学科の〇〇です」「今日の検査を担当します、〇〇です。」第一声が小さいと、やる気も、自信もなさそうに感じられ、良い印象を持たれない。しかも、第一印象は中々覆らない。お腹からのしっかりした声をイメージして、声を相手に届けよう。良い声は良い姿勢から。口が開けやすいように肩や首の力は抜いて、背筋を伸ばす。たっぷり息を吸うことが、しっかり声を出すためには必要。少しいっしょにやってみよう。(発声練習をする)手元のカルテや資料ばかり見ていると、背中丸まり、声も手元に落ちて、目の前の人には届かない。

「ではこれから、検査についてご説明します。」と、内容が複雑になれば、話すスピードや声のトーンは、相手の年齢や症状によって変わってくる。聞き慣れない医療用語は、ゆっくり言うこと。みなさんの中には、「今何て言った?」と、よく聞き返される人がいるかもしれない。声は

大きい、何と言っているのか聞き取れない人は、口が開いていないことが多い。横には開いているが、縦に開いていない人は、不明瞭で甘えたような音になってしまう。縦にもしっかり開けて、50音でも文章でも良いので、始めはゆっくりはっきりと、次第に早く言う練習をすると効果的。アナウンス講座には、幅広い年齢の人が学んでいるが、この練習で声が出るようになり、滑舌も良くなっている。効果的な練習で、だれでもいくつになっても変えられる。

分かりにくい話し方に、話のセンテンスが長い人がいる。言葉が続いて、要点が分らなくなるので、意識的に「。」まる、句点を打って話すことを心掛けて。言葉以外にも、共感の表情や相づち、目線は大事。印象を大きく左右する。話している時だけでなく、自分はどんな顔で聴いているのか?見直して、意識して欲しい。

コミュニケーションは、言葉のキャッチボールと言われる。上手に行えば、相手の考えや訴えを深く知ることができ、良い解決法も見つかるだろう。もちろん職場でのコミュニケーションも大事。報告・連絡・相談で情報を共有するために、トラブルほど速やかに報告しよう。時間が経てば、問題がさらに深刻化することもある。

最後になるが、話すために何よりも大事なことは聴くこと。「きちんと伝えたいから聴く」という姿勢で臨んで欲しい。途中相手が話に詰まっても、「待ちますよ」と言う表情で相手の発言を待つ。間(ま)が怖いからと、話し続ける人がいるが、間は必要。話を理解するための時間や、相手が質問するタイミングにもなる。また、大事なことを言う前に間を取ると、相手の印象に残る。間を恐れず、対立や攻撃は避ける。安心して話せる雰囲気を作って、言葉のやり取りを続けながら、相手の真意に辿り着いて。嫌な思いをすることもあるだろうが、くじけないで。私も何度も失敗したが、経験を積むと出来ることは増える。

今、小学校や講演会で朗読をしたり、中学生と朗読劇を上演したりしている。来場者から「感動した。良い時間だった。」と言われると、声の力を感じる。みなさんがこれから働く現場でも、「あなたの挨拶で朝から元気が出た。」「あの言葉に救われた。」という人は必ずいる。相手に寄り添う気持ちは表情に出る。そんな温かい表情とともに、しっかりと言葉を伝えられる社会人になって欲しい。

特別企画

COVID-19専用病床での経験から

熊本大学病院 看護師 ^{わたなべ} ^{ようへい} 渡辺 洋平
(保健学科看護学専攻14期)

私が所属する東8階病棟において、いわゆる第～波といわれる感染者が爆発的に増加した時期に、県内でのベッド数のひっ迫を背景にCOVID-19専用病床が開設されました。そんな専用病床での経験を一言で表すならば「とにかく大変だった」に尽きますが、収穫も多くありました。

私が特に印象的だったのは入院患者の看取りです。家族との面会すら叶わず、PPEを装着した顔も名前もわからない医療者に見送られながら火葬場へ直行するという場面に何度か立ち会いました。患者はこんな人生の最後を望んだらどうかと考えるうちに、この患者は今までどんな人生を送ってきたのかと考えるようになりました。患者には、私達が直接関われないこれまでの人生と、これからへの希望がある。それを普段のケアに繋げることができれば、と考えながら看護を行うようになりました。

専用病床では、限られた時間と自由な往来ができない空間で、呼吸不全として搬送される患者への適切な対応が求められます。看護師は初期対応から病態把握、迅速な治療のための環境調整や準備、患者と家族へ説明や傾聴によって不安の軽減に努めるなど、複数の業務を素早く並行して行わなければなりません。これらの経験によって、必要な情報や優先順位などを考えながら、他医療者

と連携して素早く安全な診療を進めるためのアセスメント力、判断力、コミュニケーション力が養われたと感じています。

また、生命の維持において最も重要な要素の一つである呼吸に異常を来し、生死の境をさまよう患者の診療に加わるには大きな責任感を伴います。しかし、治療を終えて退院した患者と家族から感謝の言葉をいただいた時は、何事にも代えがたい達成感と喜びがありました。今後は、患者ごとにそれぞれ似ているようで、一つとして同じものはない呼吸管理・呼吸療法に精通し、専門性を発揮できる知識と経験を身につけたいと考えています。

私は専用病床を通して、何事も経験することの大切さを再認識しました。在校生の皆さんにとってもこれまで約3年間は我慢の生活だったと思いますが、COVID-19感染症は今や5類へ移行し、もとの生活に戻りつつあります。大学生生活は過ぎてしまえば一瞬で尊いものです。そのため今だからできることを見つけて取り組んでほしいと考えています。いつか社会に足を踏み入れた時、そこでの経験が凶らずとも自分の背中を押してくれることを伝えたく思います。

同窓会総会に参加して

熊本赤十字病院 ^{ゆうき} ^{たいせい} 結城 大聖
(保健学科検査技術科学専攻13期)

同窓会総会の特別企画にて講演をさせていただきました。結城です。就職して2年目になります。大学を卒業してから1年以上の月日が流れ、自身が在校生に向けての話をしたことに驚きが隠せません。

私は病院では現在、生理検査に所属し、主に生理検査センターにて業務を行っています。心電図や心エコー、ABI、トレッドミル、脳波、肺機能、ホルター心電図解析など様々な検査をおこなっています。生理検査では日々患者さんと接しながら検査をしており、患者さんから「ありがとう」と言って頂けることも多く、やりがいを感じています。

2年目になり、多少は仕事に慣れてきました。ですが、身につけるべきことはまだまだ多く、不安なことも多い

のが現状です。しかし、先輩方に優しく、熱心に教えて頂きながら日々の業務を行っています。

講演では在校生のみなさんに就職活動のことや、国家試験の勉強のことなどをお話しさせていただきました。講演をするということで、自分の学生時代を振り返りました。振り返ると、あっという間に終わったと感じています。時間が経つのははやいので、在校生のみなさんには就職活動や勉強、将来自分がどうしたいか、といったことははやめに考えたほうが良いのではないかと思います。余裕をもって行動して、自分が納得のいく選択をしてほしいと思います。

また、就職活動や国家試験に向けての勉強で、きつく感じることや大変だと感じることもあるかもしれませ

ん。時には息抜きをすることも大事だと思います。いつも同じモチベーションで勉強できるわけではないと思うので、メリハリをつけて、やるときにはしっかりやってみらって、最後までやりきることが大事だと思います。最後に、私の就職活動や国家試験に向けての勉強は、

1人ではなかなかうまくいかなかったかもしれません。周囲の仲間や友人を大切にして、就職活動、国家試験、乗り越えていってもらえたらと思います。応援しています。

同窓会総会の振り返り

社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院 ^{やくしじ} 葉師寺 ^{たいち} 泰地
(放射線技術科学専攻第13期)

済生会熊本病院に就職してから早いもので1年半が経とうとしています。刺激のある毎日で時間が過ぎるのがあつという間です。最近は趣味を探すために釣りやゴルフ、山登りや水泳など様々なことに手をつけています。これといった趣味をまだ見つけられていないため今後も探していきたいです。

さて、今回は7月に開催された医学部保健学科同窓会総会で話したことを書かせていただきます。同窓会では4回生での主な活動のことを話しました。病院実習と就職活動、国家試験に向けての勉強方法の3つの事を話しました。Covid-19流行中である5月中旬から7月中旬に10週間の病院実習を行いました。基本的には熊本大学病院で行い、4週間のみ外部病院で行いました。実習中は座学で学ぶ事を改めて丁寧に教えていただき、臨床の場でのみ感じられる患者さんとの距離感や接し方、検査の進め方、機械の動かし方を学びました。病院で働く診療放射線技師と様々な話をして自身の将来像が少し確立さ

れた良い実習になりました。就職活動については、履歴書に書く内容や面接で話したこと、面接の空気感などを話しました。履歴書には志望理由の他に自己PRや趣味、特技などを書くため就職活動を始める前に練習をすることがお勧めです。筆記試験は国家試験に類似した問題であり、選択や記述もあります。単なる暗記だけでは解けない問題もあるため、内容を理解した上で記憶することが重要だと感じました。面接は何を聞かれても焦らず丁寧に答え、姿勢を正すことが重要だと感じました。国家試験は科目が多く、均等に勉強をすることが重要です。友人とオンラインで勉強をしたこともありました。時期によっては人と接する時間が極端に少なくなり、孤独感を感じました。そんなときにネット上で友人の顔を見て会話をすることで勉強しようと思えました。

熊本大学に入学して学んだ知識や技術、考え方をもとに、今後も自身のさらなる成長のために努力していきたいと考えています。

熊本大学卒業生表彰

令和5年度熊本大学卒業生表彰の表彰式が11月4日に熊本大学ホームカミングデーにて開催されました。熊本大学の発展または社会からの理解促進に繋がる多大な貢献のあった卒業生に対し、その功績を学長よりたたえられます。

本年は保健学科から勝田昇様（医学部附属診療放射線技師学校 昭和53年卒業）が表彰されました。



安田セツ子奨学助成基金運用のご報告

令和4年度は、同窓会役員で審議した結果、3名の学生さんに助成させていただきました。基金の原資をご寄附くださいました安田様ならびにご家族様へ厚く御礼を申し上げますとともに、同窓会では今後も引き続き有効な運用を検討してまいります。

この基金は「経済的に困っている学生さんの支援に使ってほしい」という安田セツ子様のご厚意を承り、設立されたものです。設立の経緯については熊本大学医学部保健学科同窓会ホームページよりご覧いただけます（同窓会会報第14号に掲載）。申請手続きについては、保健学科内の掲示板に提示されています。

ご寄附について

保健学科同窓会会長 春田 昭一

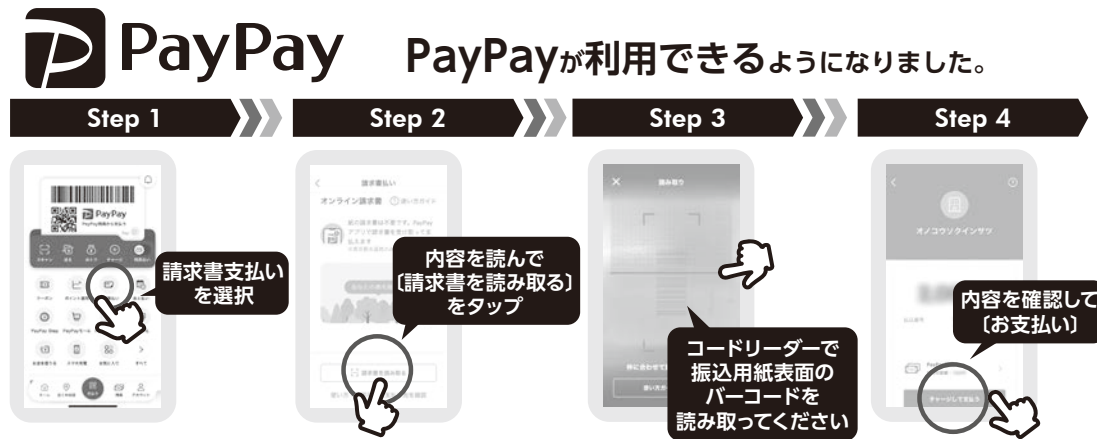
皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
日頃より保健学科同窓会へのご支援とご協力いただき誠にありがとうございます。

保健学科同窓会は、①橋渡しの場の提供（卒業生と保健学科、卒業生と在校生、各施設・病院と保健学科等の橋渡し）、②在校生への支援、③同窓生間の情報交換の場の提供を目的に、皆様のお力を借りて運営しております。

具体的には同窓会総会、学生支援、ホームカミングデー支援、会報発行などを行っております。また、今後は、保健学科学生への奨学金として開設されました安田セツ子奨学助成基金への補填も併せて検討しております。

ですが、これら同窓会の運営は、新入会時の永年会費と皆様からのご寄附が財政基盤となっています。この紙面をお借りして、ご寄附された会員、関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。同窓会として毎年の卒業生による会員増加は嬉しいことなのですが、財政的には厳しい面もあり、今後もご寄附に頼らなければなりません。

皆様には、別途「熊本大学基金」を通じて保健学科へのご寄附をお願いしているところではありますが、併せて保健学科同窓会へのご支援についても是非とも、ご寄附をお願いできますと幸いです。同封の保健学科寄附金用払込用紙では郵便局、コンビニでの支払いの他にPayPayもご利用いただけます。



国家試験合格状況

令和5年3月

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国(含既卒者)		
		受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率(%) (うち新卒者)
看護師	R2	68	68	100.0	66,124	59,769	90.4 (95.4)
	R3	70	70	100.0	65,025	59,344	91.3 (96.5)
	R4	75	75	100.0	64,051	58,152	90.8 (95.5)
保健師	R2	20	20	100.0	7,834	7,387	94.3 (97.4)
	R3	20	20	100.0	7,948	7,094	89.3 (93.0)
	R4	16	16	100.0	8,085	7,579	93.7 (96.8)
助産師	R2	13	13	100.0	2,108	2,100	99.6 (99.7)
	R3	8	8	100.0	2,089	2,077	99.4 (99.7)
	R4	10	10	100.0	2,067	1,977	95.6 (95.9)
診療放射線技師	R2	40	38	95.0	2,953	2,177	73.7 (82.8)
	R3	35	30	85.7	2,953	2,184	74.0 (83.0)
	R4	39	39	100.0	3,224	2,805	87.0 (94.1)
臨床検査技師	R2	39	34	87.2	5,115	4,101	80.2 (91.6)
	R3	37	35	94.6	4,948	3,729	75.4 (86.4)
	R4	33	33	100.0	5,002	3,880	77.6 (89.5)

熊本大学医学部保健学科同窓会寄附者芳名録

熊本大学医学部保健学科同窓会へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

今会報では、令和4年10月7日から令和5年10月6日までの間にご入金を確認させていただきました同窓会会員の皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。敬称は略させていただきます。

附属看護			楠 田 美知子 (昭和54)			宮 崎 みどり (平成22)						
生 田 セキヨ (昭和18)	甲 斐 エイ子 (昭和18)	山 崎 歌 子 (昭和26)	附属助産			坂 崎 可 南 (平成26)						
河 野 幸 子 (昭和29)	浦 田 恭 子 (昭和30)	坂 井 洋 子 (昭和31)	吉 田 法 恵 (昭和26)	佐 高 八重子 (昭和30)	中 村 英 子 (昭和32)	専攻科助産						
藤 田 孝 子 (昭和33)	山 縣 カズヨ (昭和33)	八 幡 初 子 (昭和34)	友 田 孝 子 (昭和37)	岡 野 千恵美 (昭和52)				端 山 文 子 (昭和60)	岡 村 咲 子 (平成2)	福 田 詩 子 (平成2)	尾 田 ゆ り (平成8)	
尾 崎 清 香 (昭和35)	浄 住 綾 子 (昭和35)	河 瀬 比佐子 (昭和35)	短大・看護						X線			
成 田 千鶴子 (昭和36)	清 田 瞳 (昭和36)	西 村 博 美 (昭和36)	今 村 比 鶴 (昭和55)	村 井 久美香 (昭和55)	松 金 留美子 (昭和55)	堤 國 美 (昭和42)	洞 田 貫 誠 志 (昭和42)	野 崎 征 洋 (昭和42)	天 野 一 弘 (昭和44)			
定 村 洋 子 (昭和36)	廣 川 和 代 (昭和36)	杉 香 緑 (昭和37)	福 田 由美子 (昭和55)	大 畑 緑 (昭和56)	森 蘭 ふく代 (昭和56)	附属放射						
森 山 京 子 (昭和37)	小 山 ヒロミ (昭和38)	尾 山 タカ子 (昭和38)	米 本 浩 子 (昭和56)	種 村 景 子 (昭和57)	古 野 嘉 子 (昭和57)	家 永 正 幸 (昭和45)	横 田 雅 一 (昭和45)	植 川 利 之 (昭和46)	筒 井 保 紀 (昭和48)	衛 藤 徹 三 (昭和49)	大 賀 泰 文 (昭和52)	
瀬 口 三千代 (昭和38)	富 永 喜恵子 (昭和39)	有 田 敏 子 (昭和39)	土 井 理保子 (昭和58)	粒 田 美津子 (昭和58)	田 中 理 恵 (昭和58)	宮 川 照 生 (昭和52)	大 石 芳 臣 (昭和55)	短大・放射				
高 村 靖 子 (昭和39)	宮 本 麗 子 (昭和39)	菊 地 蒼 子 (昭和40)	竹 光 ま こ (昭和59)	中 村 佳 代 (昭和59)	測 上 麻 美 (昭和60)	小 崎 敏 之 (昭和56)	西小野 昭 人 (昭和60)	水 本 悟 (昭和60)	甲 斐 剛 (昭和61)	井 上 淑 博 (平成9)	池 田 義 弘 (平成12)	
深 水 郁 子 (昭和41)	田 中 美智子 (昭和43)	早 川 和 子 (昭和43)	芝 尾 薫 (昭和60)	進 野 よし子 (昭和61)	川 原 千香子 (昭和61)	水 本 悟 (昭和60)	甲 斐 剛 (昭和61)	井 上 淑 博 (平成9)	池 田 義 弘 (平成12)	中 島 佳 子 (平成12)		
秋 元 隆 子 (昭和44)	高 木 博 子 (昭和44)	宮 里 邦 子 (昭和44)	進 野 よし子 (昭和61)	川 原 千香子 (昭和61)	戸 川 瑞 穂 (昭和62)	甲 斐 剛 (昭和61)	井 上 淑 博 (平成9)	池 田 義 弘 (平成12)	中 島 佳 子 (平成12)			
中 田 伸 子 (昭和46)	山 本 裕 子 (昭和46)	木 山 麗 子 (昭和47)	川 原 千香子 (昭和61)	戸 川 瑞 穂 (昭和62)	平 川 恵 子 (平成元)	井 上 淑 博 (平成9)	池 田 義 弘 (平成12)	中 島 佳 子 (平成12)				
道 田 紀美子 (昭和47)	南 田 親 恵 (昭和47)	永 野 香代子 (昭和47)	杉 尾 美智子 (平成元)	田 中 真由美 (平成2)	杉 尾 美智子 (平成元)	池 田 義 弘 (平成12)	中 島 佳 子 (平成12)					
島 田 美千代 (昭和48)	田 川 千壽子 (昭和48)	永 利 佳志子 (昭和48)	野 口 久美子 (平成3)	佐々木 雅 美 (平成3)	山 口 千亜紀 (平成4)	武 藤 勝 (昭和41)	野 田 治 代 (昭和42)	加 来 悦 子 (昭和43)	佐 竹 幸 子 (昭和45)			
平 野 正 子 (昭和49)	泉 るり子 (昭和50)	平 山 美智子 (昭和50)	山 口 千亜紀 (平成4)	古 島 典 子 (平成5)	古 森 崎 恵 子 (平成8)	野 田 治 代 (昭和42)	加 来 悦 子 (昭和43)	佐 竹 幸 子 (昭和45)				
大 曲 昭 子 (昭和50)	後 藤 桂 子 (昭和52)	清 水 恵 子 (昭和53)	古 森 崎 恵 子 (平成8)	黒 田 美 春 (平成8)	溝 口 貴 子 (平成10)	武 藤 勝 (昭和41)	野 田 治 代 (昭和42)	加 来 悦 子 (昭和43)	佐 竹 幸 子 (昭和45)			
			安 元 佐知子 (平成10)	北 島 ちひろ (平成12)	西 岡 未 和 (平成13)	附属衛生						
			大 井 美 里 (平成13)	堀 川 宜 子 (平成17)	今 村 聡 子 (平成17)	臨床検査						
			安 部 はるか (平成17)	保学・看護			短大・衛生					
			廣 かほる (平成22)				河 野 昌 俊 (昭和50)	森 信 子 (昭和50)	森 理恵子 (昭和50)	吉 川 裕 子 (昭和50)	中 湯 順 子 (昭和51)	錦 戸 洋 子 (昭和53)
						秦 素 子 (昭和55)						

山本克代	(昭和55)	永井香代子	(平成5)	高山睦子	(昭和54)
濱田紀美子	(昭和56)	中尾恵	(平成11)	福永淳子	(昭和55)
松下洋一	(昭和56)	本村裕実子	(平成11)	浜田料子	(昭和56)
星祥子	(昭和56)	大西信宏	(平成15)	横田素美	(昭和57)
赤池朋子	(昭和57)	小川秀一郎	(平成15)	佐伯良子	(昭和58)
甲斐智子	(昭和58)	渡邊仁美	(平成17)	疋田利恵	(昭和59)
岩永貴代	(昭和58)			佐藤穂波	(昭和62)
保元富子	(昭和58)			梅山栄子	(昭和63)
白井邦明	(昭和59)			松浦里江	(平成元)
田村尚子	(昭和59)			福澤恵美子	(平成5)
春田昭一	(昭和59)			浅井あかね	(平成6)
松永筆子	(昭和59)			亀崎令子	(平成9)
竹本久美子	(昭和61)			砂川友美	(平成10)
佐野真美	(昭和62)			船越和美	(平成10)
山崎祥子	(昭和62)			原美穂	(平成11)
西森みどり	(昭和62)			高野瞳	(平成17)
佐田直美	(平成3)			嶋田里佳	(平成17)

保学・検査	
遠藤祐子	(平成21)
木下祐美子	(平成27)
福山翔大	(令和4)

特別看護	
本間照子	(昭和47)
谷口まり子	(昭和49)
東サトエ	(昭和49)
大神真理子	(昭和51)
塚元正子	(昭和54)



令和4年度卒業生の進路状況等について

R 5.5月末現在

看護学専攻 (卒業生75名)		
(就職)		
熊本大学病院	熊本県	15
熊本県庁	熊本県	4
福田病院	熊本県	4
熊本市役所	熊本県	3
済生会熊本病院	熊本県	3
国立病院機構 熊本医療センター	熊本県	2
熊本市民病院	熊本県	1
九州大学病院	福岡県	4
福岡大学病院	福岡県	1
国立病院機構 九州医療センター	福岡県	1
聖マリア病院	福岡県	1
福岡青洲会病院	福岡県	1
北九州市役所	福岡県	1
久留米建設	福岡県	1
長崎大学病院	長崎県	1
国立病院機構 長崎医療センター	長崎県	1
佐世保共済病院	長崎県	1
諫早市役所	長崎県	1
宇佐市役所	大分県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	1
大分県庁	大分県	1
大分市役所	大分県	1
宮崎県庁	宮崎県	1
宮崎県立病院	宮崎県	1
宮崎県立日南病院	宮崎県	1
宮崎江南病院	宮崎県	1
鹿児島大学病院	鹿児島県	1
鹿児島県庁	鹿児島県	1
恒心会おぐら病院	鹿児島県	1
東京大学医学部附属病院	東京都	1
虎の門病院	東京都	1
国立国際医療研究センター病院	東京都	1
聖路加国際病院	東京都	1
国立病院機構 東京医療センター	東京都	1
山口赤十字病院	山口県	1
泰玄会病院	愛知県	1
春日部中央総合病院	埼玉県	1
神戸市立医療センター中央市民病院	兵庫県	1
オリエンタルランド	千葉県	1
その他 (就職活動継続等)		1
就職小計		68
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	1
熊本大学看護教諭特別別科	熊本県	3
聖路加国際大学大学院看護学専攻基礎看護・看護技術学	東京都	1
白鳳短期大学	奈良県	1
札幌医科大学専攻科公衆衛生看護学専攻	北海道	1
進学小計		7

放射線技術科学専攻 (卒業生39名)		
(就職)		
済生会熊本病院	熊本県	1
熊本地域医療センター	熊本県	1
日本赤十字社熊本健康管理センター	熊本県	1
熊本整形外科病院	熊本県	1
杉村病院	熊本県	1
大牟田市立病院	福岡県	4
医療法人社団高邦会 高木病院	福岡県	2
九州大学病院	福岡県	1
北九州市立病院機構	福岡県	1
福岡山王病院	福岡県	1
小倉記念病院	福岡県	1
長崎大学病院	長崎県	1
唐津赤十字病院	佐賀県	1
大分県立病院	大分県	1
いけいめい記念病院	宮崎県	1
古賀総合病院	宮崎県	1
喜界徳洲会病院	鹿児島県	1
米盛病院	鹿児島県	2
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター	東京都	1
メディカルスキニング	東京都	1
山口県総合医療センター	山口県	1
いまえだ歯科口腔外科・矯正歯科	愛知県	1
獨協医科大学埼玉医療センター	埼玉県	1
千葉大学医学部附属病院	千葉県	1
千葉市立青葉病院	千葉県	1
行徳総合病院	千葉県	1
船橋整形外科病院	千葉県	1
済生会横浜市東部病院	神奈川県	1
金沢大学附属病院	石川県	1
筑波大学附属病院	茨城県	1
島根大学医学部附属病院	島根県	1
未定 (就職活動継続・資格試験受験準備等)		1
就職小計		37
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	2
進学小計		2

検査技術科学専攻 (卒業生33名)		
(就職)		
熊本大学病院	熊本県	1
済生会熊本病院	熊本県	3
熊本赤十字病院	熊本県	2
熊本機能病院	熊本県	1
公益財団法人 熊本県総合保健センター	熊本県	1
医療法人社団高邦会 高木病院	福岡県	3
日本赤十字社福岡県支部	福岡県	1
福岡市役所	福岡県	1
福岡山王病院	福岡県	1
飯塚市立病院	福岡県	1
戸畑共立病院	福岡県	1
二田哲博クリニック	福岡県	1
佐世保中央病院	長崎県	1
日本赤十字社 長崎原爆病院	長崎県	1
諫早総合病院	長崎県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	1
出水部医師会広域医療センター	鹿児島県	1
慈愛会今村総合病院	鹿児島県	1
相良病院	鹿児島県	1
竹内レディースクリニック	鹿児島県	1
広島市立広島市民病院	広島県	1
武田総合病院	京都府	1
就職小計		27
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	4
熊本大学大学院医学教育部	熊本県	1
畿央大学臨床細胞学別科	奈良県	1
進学小計		6

保健学科教員紹介

◆看護学専攻

【基礎看護学講座】

教授：青石 恵子 前田ひとみ
准教授：中村 五月 松本 智晴
講師：永田まなみ 金森 弓枝
助教：福重 真美 森枝紗季子

【看護実践開発講座】

教授：國府 浩子 三笥 里香
准教授：柗中智恵子 福山 美季
講師：城下 由衣
助教：島田久仁子 橋野 明香 樋口 有紀

【健康科学講座】

教授：跡上 富美 大河内彩子 河野 宏明
田代 浩徳
准教授：秋月 百合
講師：那須 信
助教：谷川 千春 山本麻起子 吉田 佳代
【大学病院からの派遣教員】
臨床講師：緒方 祐子

◆放射線技術科学専攻

【医用画像科学講座】

教授：北島 美香 白石 順二 藤原 康博
准教授：米田 哲也
助教：辻田 直子

【医用放射線科学講座】

教授：伊藤 茂樹 船間 芳憲 村上 龍次
准教授：大野 剛 坂本 史
助教：中戸 研吾

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学講座】

教授：大林 光念 柳沼 裕二 山本 雅大
講師：伊藤 雅浩
助教：橋本 弘司

【生体情報解析学講座】

教授：伊藤 隆史 大坪 和明 大森 久光
准教授：田崎 雅義
助教：梶原隆太郎 松尾 祐一 森 信子

令和5年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員名簿

名誉会長：大林 光念（熊本大学大学院保健学教育部長・保健学科長）

会長：春田 昭一（済生会熊本病院）

副会長：羽手村昌宏（熊本大学病院）
溝上 幸洋（くまもと森都総合病院）

理事：

（看護）山本 治美（熊本大学病院）
田中紀美子（元九州看護福祉大学）
片平 起句（医療法人社団愛育会福田病院）
福重 真美（熊本大学医学部保健学科）
（放射）荒木不次男（元熊本大学医学部保健学科）
有村 大喜（済生会熊本病院）
大野 剛（熊本大学医学部保健学科）
（検査）増永 純夫（元熊本中央病院）
片淵 達也（熊本大学病院）

幹事：

（看護）山本麻起子（熊本大学医学部保健学科）
森枝紗季子（熊本大学医学部保健学科）
（放射）辻田 直子（熊本大学医学部保健学科）
川俣 祐貴（熊本大学病院）
（検査）田崎 雅義（熊本大学医学部保健学科）
松尾 祐一（熊本大学医学部保健学科）
高島 裕子（元熊本大学病院医療技術部）
矢野 浩夢（熊本大学大学院生命科学研究部）
会計：松本 佳代（熊本保健科学大学看護学科）
吉田 佳代（熊本大学医学部保健学科）
監事：北里 眞弓（元熊本保健科学大学看護学科）
橋田 昌弘（帝京大学福岡医療技術学部）

◆看護職員募集 熊本大学病院看護部



熊本大学医学部保健学科同窓生のみなさまへ
“私たちと一緒に働きましょう”

私たちの病院は、看護職員一人ひとりが専門職としての能力向上につながるキャリア開発支援と生き活きと働き続けられる職場づくりを目指しています。

熊本県看護職キャリア開発支援事業での人事交流や看護師特定行為研修など、いろんなことにチャレンジしてみませんか。



詳しくはホームページをご覧ください。